

ご挨拶

技報第10号発行にあたり

株式会社フジコー
代表取締役

山本 厚生

Atsuo Yamamoto



お陰をもちまして、弊社は今年で創業50周年を迎えることが出来ました。

これはひとえに皆様方のご指導ご鞭撻の賜物だと心より感謝いたしております。

10年前の創業40周年を迎えた時、この節目に何か記念に残ることをやろうと考え、技術年報『tsukuru (創る)』の発刊を決心いたしました。

決心したものの当社の底の浅い技術開発力からみて、3年続くのが関の山とっておりましたが、『tsukuru (創る)』もお陰さまで10年続けることが出来ました。

3年続けば4年と、継続は力だと皆に言い聞かせ頑張っただけでした。

今年創業50周年を迎え、前回と同じように何かをやらねばと思立ち、『技術開発センター』の設立を決心いたしました。

経営環境の厳しいこの時期に、新たなコスト計上をしなければならぬものを作る…、現状の弊社財力・経営力では不可能に近い発想でありました。

どうしたらコストアップにならず『技術開発センター』の設立と運営が可能になるか皆と協議をしました。

私達は『北九州工場』の生産を止め主力工場の『山陽工場』に生産をシフトする、このリストラにより収益の向上を図り開発コスト増を吸収する、空いた工場を『技術開発センター』として活用し大きな建設費を掛けないようにする、研究装置は独自性の高い物は別とし新たな投資はせず、官・学所有の高級設備を積極活用する。

この結論により、リフォームで設備も満足とは言

えませんがまがりなりにも、『技術開発センター』設立の運びとなりました。

奇しくも『技術開発センター』(旧北九州工場)は弊社発祥の地に立地することになりました。小さな『技術開発センター』ではありますが、私達は大きな夢を次々に創造開発するセンターにしたいと思っております。

製造業は技術が支えであり、技術なきところに企業は無いと思っております。

この競争激化の厳しい21世紀を生き残る最大ポイントは、次期の技術を人より早く創り、たゆまなき技術革新を続けることだと思います。

フジコーは技術を生命線とし、あらゆる企業のあらゆるニーズに対応できる、専門的高技術技能集団の確保と育成を常に志し、お客さまに『フジコーでなくてはダメだ!』と言われるような、期待と信頼度の高い企業を構築する、をモットーとしております。

弊社は創業50周年を期に、『技術開発センター』を設立させました。

今後は一層技術開発に力を注ぎ、今まで以上に皆様のお役に立てる開発を可能にすべく、日々研鑽努力を重ねていく所存でございます。

今後とも皆様方のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。